

「口加高校の教育の根幹にあるもの」

口加高等学校長 狩野 博臣

「一人一人の夢や目標に優劣はありません。生徒に愛情を注ぎ、寄り添い、進路目標を達成させる高校でありたい。」これが、口加高校の教育の根幹をなす考え方です。

生徒が100人いれば100通りの夢があります。また100通りの個性や能力、無限の可能性があります。一人一人の個性を伸ばし、引き出していくのが教育です。教育とは未来です。未来を創るのが教育です。学校は夢を語り、夢を実現する場でなければなりません。今の生徒の姿を見てレッテルを貼らない。なぜならば人は変わり、必ず成長するからです。10年後や20年後に夢をかける。そして、それぞれの個性や能力を生かして、将来、社会に貢献していくような生徒を育てたいと考えています。

人はすぐに他人と比較したり、優劣を決めたり、順位をつけたがります。かつて SMAP が歌った「世界に一つだけの花」の歌詞が人々の共感を呼びました。「No.1にならなくてもいい、もともと特別な Only One・・・一人一人違う種を持つ、その花を咲かせるだけに一生懸命になればいい」と歌っています。

「私」という人間は親ともきょうだいとも違う、世界で唯一無二の存在です。生徒たちの個性も、抱く夢や目標もそれぞれ違い、そこに優劣はありません。みかん、バナナ、リンゴを並べて「さあ、どれが一番優秀ですか」と問うても意味がないのと同じです。色、形、大きさなどみな違い、それぞれ個性を持った果物だからです。生徒たちが持っている種を大切に育て、将来、花を咲かせることができるような教育を行いたいと考えています。

フランスの哲学者のアランがこう言っています。「ケーブルカーで来た者には、登山家と同じ太陽を見ることはできない。」学習でも部活動でも乗り越えなければならぬ山や壁は必ずあります。どんな世界であれ、楽をして成功することはできませんし、どんなに素晴らしい種を持っていても努力をしなければ花を咲かせることはできません。人生は全てが順風満帆に進むことはありませんので、努力することの尊さや諦めないことの大切さなども教え、叱咤激励しながら登山家と同じ太陽を生徒たちには見せてあげたいと思います。

あなたの夢を語り、口加高校に来ませんか。夢や目標を達成するために口加高校に来ませんか。**私たちは、生徒に愛情を注ぎ、とことん寄り添い、進路目標を達成させる、そのような口加高校でありたいと思います。そして、生徒たちの頑張りに全力で応える教師でありたい**と考えています。

他人と過去は変えられませんが、自分と未来は変えられます。来年4月8日が口加高校の入学式です。私は校長として、自分と自分の未来を変えようとする皆さんを心から歓迎したいと思います。